

## 特集 「国際学部の SDGs の取り組み」

# SDGs と国際学部関係教員の教育研究

## ―試行的調査の結果と今後の展開―

中 村 真

### はじめに

2019年9月に、宇都宮大学第1回コラボレーション・フェアが開催されることになった。この催しは、これまでいわゆる理系学部を中心にした産学共同の研究やその成果紹介のための企業交流会であったものを、文理を問わず宇都宮大学全体の教育研究活動を広く地域に発信するための企画として再定義され、今年度から実施されたものである。これを機会に、多文化公共圏センターとして、国際学部関係教員と本センターがこれまで行ってきた教育研究と取組みを紹介することとした。その際、近年注目され、宇都宮大学としても積極的に関わっていくことになった国連の持続可能な開発目標（SDGs）と結びつけることにより、効果的な教育研究の紹介ができると考え、関係教員の教育研究とSDGsとの関連付けを試みた（[https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)）。

本稿では、上記コラボレーション・フェアで報告された関連付けに関する調査内容を紹介するとともに、SDGsに関して先進的取組みを進めてきている岡山大学において筆者が実施した聞き取り調査を踏まえ、今後の国際学部と多文化公共圏センターの教育研究の展開について考察する。

### SDGsと国際学部関係教員の教育研究―試行的調査

2019年7月に国際学部教授会において、関係教員全員の教育研究とSDGsの17の目標との関係を確認するための調査を実施する旨を報告し

たうえで調査を開始し、全教員から回答を得た。調査に際して、教育については担当科目ごとに各目標との関連の有無を尋ねた。また、研究に関しては、これまで実施してきた個別の具体的な研究テーマと各目標との関連を尋ねた。担当科目、研究テーマのいずれについても、関連する目標の数には制限がないこととした。

調査の結果を教育（担当科目と目標との関連：表1）と研究（個別の具体的研究テーマと目標との関連：表2）に分けて集約した。2つの表を見ると、教育と研究のいずれについても、17全ての目標と関連している科目やテーマから、特定の目標と関連しているものまでさまざまなであった。具体的には、「グローバル」、「環境」、「国際」、「多文化」に関わる授業科目は多くの目標と関係しており、ほとんどの科目が複数の目標と関係していることが確認できた。研究についても、「環境」や「国際協力」、「国際政治」のような世界や社会全体に関わる問題を取り上げる課題や、グローバル教育、多文化教育に関わるテーマは多くの目標と関係していた。

このような関連の状況は、社会問題の解決という課題が多くの学問領域と関わっていることを示していると同時に、国際学部の特徴でもある多文化共生教育のための学際的教育研究を反映しているといえよう。また、全教員の担当科目と研究テーマが、少なくとも一つの目標と関係しており、国際学部の教育研究が全体としてSDGsと深くかかわっていることが示された。なお、研究については、教育と比較すると個別の目標のみと関連するテーマも少なくないが、

これは、研究においては、より焦点を絞った具体的なテーマが設定されているためと考えられる。

今回の調査では、調査対象となった関係教員の全員がかならずしもSDGsについて深い理解を共有している状況ではなかったが、これまで国際学部が取り組んできた教育研究が17の目標と密接に結びついていることが示された。世界の多くの国で共有されている目標の達成に貢献することを新たな学部の教育研究目標として設定することにより、今後、これまで以上に組織的な教育研究を展開していくことができるものと思われる。

### 岡山大学での聞き取り調査

2019年11月15日に岡山大学において、SDGs、並びに関係する取組みについての聞き取りを行った。対応者は、高橋香代理事（企画・評価・総務）、伊野英男副理事（教育、戦略的IR/IE）、横井篤文副学長（海外戦略）、山本由美子准教授の4名であった。ここでは、国際学部と多文化公共圏センターの取組みに関係する内容を要約して報告する。

・岡山大学も、まず、バックキャスティングを行うことから始めた。つまり、これまでの大学や地域の歴史を振り返り、すでに行ってきた取組みがSDGsとどのように結びつくかを確認する。その作業を通じて見えてくることもある。組織の特徴を生かした取組みは何かを探す。

・SDGsは、すでに社会のあらゆるセクターで受け入れられている。高校でも、就職先である企業等も進めており、大学での対応も不可欠。

・社会の流れを把握しつつ対応する必要がある。現在は第1段階であり、バックキャスト中心だが、今後は第2段階に入り、先付けマッピングをして優先順位を決めて進めていく必要がある。

・SDGsのさらに先を見た目標設定はすでに議

論されている。また、このような目標は、各国、各組織が常に更新しており、3年ごと、進めれば1年くらいでも流れや風は変わる。進む方向は変えず、その流れや風をうまくとらえて、推進力にしていく必要がある。

・原発問題や宗教間対話、多文化共生などの問題は先進的であり、SDGsでは取り上げられていない今後の課題として認識されている。

・国際機関や企業などが、インターネット上で世界を直接見渡している。発信することが重要であり、フィードバックを得て、さらに取組みを行い、また発信する。世界中が「優れた取組み（good practice）」を探している。

### 今後の教育研究の展開について

岡山大学での聞き取りを踏まえ、今後の国際学部の教育研究と多文化公共圏センターにおける取組について考察する。

まず、この度の調査は、国際学部関係教員がこれまでに行ってきた取組みを振り返り、SDGsと関連付けるバックキャスティングの試みであった（なお、その結果を紹介したコラボレーション・フェアでは、栃木県内の自治体、商工会議所の関係者から助言を依頼されるなど、地域との連携の可能性を示すフィードバックを得ることができた）。本稿では、この調査結果を簡潔に要約したが、改めてわれわれがこれまでに行ってきた教育研究と取組みを振り返り、反省することが、これからの展開を意味のあるものとするための原点になると考えられる。

そのうえでの先付マッピングとしては、SDGsとその先を見据えた取組みとして、多文化共生を目標に掲げることは有益と思われる。個別の目標としては、質の高い教育（目標4）、ジェンダー平等（目標5）、人や国の不平等をなくす（目標10）、平和と公正（目標16）、パートナーシップ（目標17）などに関す

今後は、これらの国際学部の特徴と強みを生

教員名																																																																																																																																																																																																																																									
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

立花有希				多文化共生教育 グローバル化と 外国人児童生徒 の教育				多文化共生 論入門 多文化共生 教育		多文化共生 論入門	多文化共生 論入門						
佐々木一隆				言語学 言語学演習 言語比較論						言語学 言語比較論							言語学 言語比較論
倪 永茂				情報と倫理、 情報ネットワーク 概論				情報と倫理、 情報ネットワーク 概論									
鎌田美千子				日本語教育方法 論 日本語教育方法 論演習 日本語教育概論 日本語教育特別													日本語教育方法 論 日本語教育方法 論演習 日本語教育概論 日本語教育特別
飯塚明子				Disaster Studies 災害に強いコ ミュニティの （基盤）				Disaster Studies 災害に強いコ ミュニティの （基盤）	Disaster Studies	Disaster Studies 災害に強いコ ミュニティの （基盤）	Disaster Studies 災害に強いコ ミュニティの （基盤）	Disaster Studies 災害に強いコ ミュニティの （基盤）	Disaster Studies 災害に強いコ ミュニティの （基盤）	Disaster Studies 災害に強いコ ミュニティの （基盤）	Disaster Studies 災害に強いコ ミュニティの （基盤）	Disaster Studies 災害に強いコ ミュニティの （基盤）	Disaster Studies 災害に強いコ ミュニティの （基盤）
大野清子				芸術文化論 表象文化論													
湯澤伸夫				Phonetics and Phonology													
モリソン・バー バラ			Speech Clinic	Internation al Communica tion	ジェンダー論			Internation al Career Seminar		翻訳文学ゼミ						文章表現 A	翻訳文学論
吉田一彦				言語コミュニ ケーション研究 D（日本語教 育と国際協力 演習）						多言語コミュニ ケーション学 A/B							日本語教育と 国際協力
柄木田康之				多文化共生 基礎C（文化 人類学）			民族誌学			多文化共生 基礎C（文化 人類学）		民族誌学	オセアニア地 域研究	オセアニア地 域研究			オセアニア地 域研究
中村真				多文化共生コ アB（異文化間 コミュニケーション 対人コミュニケー ション論）						多文化共生コ アB（異文化間 コミュニケーション 対人コミュニケー ション論）						多文化共生コ アB（異文化間 コミュニケーション 対人コミュニケー ション論）	
松井真子				日本文化論A						日本文化論B 日本文化論 演習							
磯谷裕								多文化共生基 礎G（国際経 済論） アメリカの経済と 社会			多文化共生基 礎G（国際経 済論） アメリカの経済と 社会						
松村史紀										多文化共生 基礎F（国際 政治論）							
横野佳奈子										フランス文化 論							
米山正文										アメリカ文化論 アメリカ文学史							

[illegible]

倪 永茂				情報化社会 における集合 知形成の可 能性					情報化社会 における集合 知形成の可 能性								
鎌田美千子				言語教育研究 外国人児童生 徒への学習支援 に関する方法論 的研究													言語教育研究 外国人児童生 徒への学習支援 に関する方法論 的研究
出羽尚				イギリスの美術 と文化の研究													
横野佳奈子				科学普及活 動の歴史と現 在に関する研 究													
湯澤伸夫				現代英語音 声の特徴と英 語音声教育 への応用													
吉田一彦				成人外国語 学習者の特 質に合った学 習法・教授法 の研究						相互理解促 進に供する多 言語によるコ ミュニケーション							言語普及政 策・教育政策 の検討
柄木田康之				文化の多様 性をふまえた ジェンダーの平 等性の構築				資本主義的 商品交換とは 異なる社会関 係の可能性を 模索する		文化相対主 義にもとづく異 なる文化間の 平等の構築		資本主義的 商品交換とは 異なる社会関 係の可能性を 模索する	太平洋島嶼 社会の海洋 適応の研究	太平洋島嶼 社会の海洋 適応の研究			移民ネットワ ークに基づく地 域間連携の 検討
モリソン・バーバラ																	多文化共生と 仏教（寺）
磯谷玲								アメリカの金融 制度									
松井真子										多文化の同 質性と異質性							
松村史紀										能力観と冷戦 の比較研究							
大野清子										ロシア帝国の ウクライナ文化 研究							
米山正文										アメリカ文学に おける民族表 象							